

ひとりで学ぶ

超図解 マクロ経済学

【改訂版】



有馬秀次 著

フィナンシャル・アーティスト・アカデミー

定価(本体 500 円+税)

PDF形式

ISBN978-4-9903383-5-0 C0833 ¥500E

ひとりで学ぶ 超図解マクロ経済学 一まえがき

◆ 改訂にあたって

本書は、経済をひとりで学ばれる方に役立つ1冊にしたいという願いを込めて、2006年10月に執筆したものです。

これまで、電子ブック(CD版)という形式で永らくご愛顧いただきありがとうございました。およそ5年半という月日の流れを経て、このたび、PDF版・CD版・書籍版という3つの媒体で、新たに改訂いたしました。

改訂にあたり、イラスト全般をリニューアルし、一部加筆修正を行いました。

◆ 本書の特徴

本書は、^{せんもんしょ}専門書や^{こうむいんしけんもんだい}公務員試験問題に^{まえ}チャレンジする前に読むのに最適な一冊です。通常、経済の専門書は、幅広い丁寧な解説がなされています。しかし、初めて経済を学ばれる方にとっては邪魔な知識も多く含まれており、特に独学される方は経済学の世界で迷子になりがちです。

本書では、^{ずひょう}イラストや^{ずひょう}図表をたくさん取り入れることで、誰もが一度は疑問に思う問題をわかりやすく解説しています。主な特徴は次の通りです。

- (1) ^{たんじかん}短時間で、^{しゅうとく}ポイントが習得できる
- (2) ^{みひら}見開き2ページ(^{かいせつ}解説と^{ずひょう}イラスト^{こうせい}図表)で構成しており、^み見やすい
- (3) ^{かくしやう}各章のまとめと^{ずかい}イラスト^よ図解を読むだけでも、^みストーリーがわかる
- (4) ^{かくしやう}各章の^{けいざいがく}コラムから、^よ経済学を読み解く^とヒントがつかめる
- (5) ^{じゅうよう}重要ポイントには、^{ルビ}ルビがふってある

◆ 著者より皆様へ

時間のない方は、各章ごとの^{まとめ}まとめに目を通してください。わずかな時間でも主要ポイントが理解できるように工夫しています。また、文章を読むのが苦手な方は、先に^{ぶぶん}イラスト部分を見てから本文を読むことをおすすめします。

本書がマクロ経済学を学ばれる方の一助になれば幸いです。

ありがとうございました。

2012年7月 有馬秀次

もくじ

第1章 マクロ経済学って何？	7
1-1 経済って何？ お金のやりとり	8
1-2 経済の始まり 分業と交換	10
1-3 経済とは、取引のこと！	12
1-4 経済学って何？ 資源配分	14
1-5 経済理論のエッセンス 需要＝供給	16
1-6 マクロ経済学とミクロ経済学	18
1-7 マクロ経済理論って何？	20
1-8 2つのマクロ経済理論はどう違う？	22
1-9 経済政策って必要なの？	24
1-10 マクロ経済学を学ぶ目的って何？	26
1-11 まとめ	28
1-12 ワンポイント・コラム ジョン・メイナード・ケインズ	30
第2章 経済のしくみ	31
2-1 経済は「取引」から捉えよう！	32
2-2 経済主体の役割と行動	34
2-3 市場って何？	36
2-4 交換取引の役割	38
2-5 市場で何を分析するの？	40
2-6 マネーストックって何？	42
2-7 まとめ	44
2-8 ワンポイント・コラム 理論とあてはめ	46
第3章 経済のものさし	47
3-1 経済のものさしって何？ GDP と物価	48
3-2 GDP＝最終生産物の総取引額	50
3-3 GDP＝付加価値の合計	52
3-4 フローとストックはどう違う？	54
3-5 国民経済計算(SNA)って何？	56

3-6	93SNA の導入	58
3-7	GDP の規模 世界の GDP はどれくらい?	60
3-8	帰属計算 GDP に入る? 入らない?	62
3-9	国内所得のいろいろな呼び方	64
3-10	国内純生産(NDP)って何?	66
3-11	国内所得(DI)って何?	68
3-12	国内可処分所得(DDI)って何?	70
3-13	三面等価の原則 生産=分配=支出	72
3-14	国内総支出(GDE)の内訳	74
3-15	国民と国内の違いって何?	76
3-16	日本の経済の捉え方	78
3-17	GDP デフレーターって何?	80
3-18	GDP デフレーターの計算	82
3-19	パーシェ指数とラスパイルズ指数	84
3-20	消費者物価指数って何?	86
3-21	株価指数	88
3-22	株価指数はどうして動くの?	90
3-23	産業連関表って何?	92
3-24	投入係数表って何?	94
3-25	まとめ	96
3-26	ワンポイント・コラム GDP が大きくなるとみんな幸せ?	98
第4章	経済の病気	99
4-1	景気の変動って何? 好景気と不景気	100
4-2	景気の山と景気の谷	102
4-3	景気循環には4つの波がある!	104
4-4	景気を見るための統計	106
4-5	物価の変動って何? インフレとデフレ	108
4-6	いろいろなインフレ	110
4-7	いろいろなデフレ	112
4-8	まとめ	114
4-9	ワンポイント・コラム “物価が高い”は怖くない! 怖いのは、継続的上昇!	116

第5章 経済の病気の治し方	117
5-1 経済政策って何?	118
5-2 経済政策って、どんなときに必要?	120
5-3 財政政策って何?	122
5-4 金融政策って何?	124
5-5 金融政策にはどんな方法があるの?	126
5-6 まとめ	128
5-7 ワンポイント・コラム スタグフレーション	130
第6章 ミクロ理論における市場メカニズム	131
6-1 市場メカニズムってどんなしくみ?	132
6-2 市場はどうやって均衡するの?	134
6-3 需要曲線と供給曲線って何?	136
6-4 需給の調整をグラフで見よう!	138
6-5 まとめ	140
6-6 ワンポイント・コラム アダム・スミスって誰?	142
第7章 マクロ経済理論って何?	143
7-1 完全雇用国民所得って何?	144
7-2 新古典派とケインズ学派の理論はどう違う?	146
7-3 新古典派理論って何?	148
7-4 ケインズ理論って何?	150
7-5 価格調整と数量調整って何?	152
7-6 どの市場を分析するの?	154
7-7 国民所得はどうやって計算するの?	156
7-8 グラフでわかるケインズ理論	158
7-9 まとめ	160
7-10 ワンポイント・コラム 均衡国民所得って、均衡? それとも不均衡?	162
第8章 45度線分析って何?	163
8-1 総需要って誰の支出?	164

8-2	乗数理論って何？	166
8-3	消費関数って何？	168
8-4	均衡国民所得はどうやって求めるの？	170
8-5	総供給関数と総需要関数をグラフで見ると？	172
8-6	45 度線分析って何？	174
8-7	インフレ・ギャップって何？	176
8-8	デフレ・ギャップって何？	178
8-9	ギャップはどうやって求めるの？	180
8-10	総需要管理政策で完全雇用の実現！	182
8-11	まとめ	184
8-12	ワンポイント・コラム グラフの目盛は何をあらわす？	186
第9章	貨幣理論と IS-LM 分析	187
9-1	貨幣は経済に影響する？	188
9-2	ケインズ学派の貨幣理論: 貨幣需要って何？	190
9-3	ケインズ学派の貨幣理論: 貨幣市場の均衡条件	192
9-4	ケインズ学派の貨幣理論: 貨幣需要曲線を見てみよう	194
9-5	利子率と国民所得はどういう関係？	196
9-6	LM 曲線って何？	198
9-7	IS バランスって何？	200
9-8	投資と利子率はどういう関係？	202
9-9	IS-LM 分析って何？	204
9-10	IS-LM 分析はどうやって計算するの？	206
9-11	ケインズ学派の貨幣理論: 利子率の操作	208
9-12	経済政策にはどんな効果があるの？	210
9-13	金融政策の効果が得られない現象って何？	212
9-14	財政政策の効果が得られない現象って何？	214
9-15	新古典派の貨幣理論: フィッシャーの交換方程式	216
9-16	新古典派の貨幣理論: 交換方程式の変形版	218
9-17	ケインズ学派と新古典派はどう違う？	220
9-18	まとめ	222
9-19	ワンポイント・コラム 取引がつくる未来！	224

第 10 章労働市場と AD-AS 分析	225
10-1 AD-AS 分析って何?	226
10-2 AD 曲線はどうやって導出するの?	228
10-3 AS 曲線はどうやって導出するの?	230
10-4 総供給関数(AS 曲線式)の導出	232
10-5 新古典派:労働需要と労働供給はどう決まる?	234
10-6 新古典派:労働市場の均衡と AS 曲線	236
10-7 ケインズ学派:労働需要と労働供給はどう決まる?	238
10-8 ケインズ学派:労働市場の均衡と AS 曲線	240
10-9 新古典派の AD-AS 分析と経済政策の効果	242
10-10ケインズの AD-AS 分析と経済政策の効果	244
10-11ケインジアンとマネタリスト ルールか裁量か?	246
10-12ニュー・ケインジアンとニュー・クラシカル	248
10-13まとめ	250
10-14ワンポイント・コラム 未来をつくる力	252



第1章

マクロ経済学って何？

マクロ経済学は、「私たちの暮らし」を社会全体の視点から考える学問です。マクロ経済学を学ぶと、社会の動きやしきみがわかるようになります。

◆◆◆ 第1章 目次 ◆◆◆

- 1-1 経済って何？ お金のやりとり
- 1-2 経済の始まり 分業と交換
- 1-3 経済とは、取引のこと！
- 1-4 経済学って何？ 資源配分
- 1-5 経済理論のエッセンス 需要＝供給
- 1-6 マクロ経済学とミクロ経済学
- 1-7 マクロ経済理論って何？
- 1-8 2つのマクロ経済理論はどう違う？
- 1-9 経済政策って必要なの？
- 1-10 マクロ経済学を学ぶ目的って何？
- 1-11 まとめ

◆◆◆ ワンポイント・コラム ◆◆◆

ジョン・メイナード・ケインズ

1-1 経済って何？ お金のやりとり

経済とは、私たちの暮らしのことです。会社に働きに行くとか、買物をするなど、「**お金のやりとり**」をとまなう活動のことをいいます。

◆ 財・サービスって何？

私たちは、たくさんの**財**や**サービス**を使って暮らしています。財とは、食べ物、家電製品、車など、生活に必要な商品や、欲求を満足させる商品のことで、一方、サービスとは、人が手助けしてくれる行為のことで、**用役**ともいいます。

◆ 経済＝生産と消費の循環活動

財やサービスを使うことを**消費**、財やサービスをつくることを**生産**といいます。私たちは会社で働き、財やサービスを消費するための**お金(所得)**を得ています。会社は財やサービスを生産(販売)して、私たちはそれを消費(購入)する生活を送っています。社会全体をながめると、私たちの暮らしは**生産と消費の循環活動**として捉えられます。

◆ 経済＝お金のやりとり

経済とは、財やサービスを**お金でやりとり**する活動のことです。たとえば、映画やコンサートに行くとか、買い物、レストランで食事をするなど、お金の受払いをとまなう活動です。

逆に、お金のやりとりのない活動は、経済活動と見なしません。たとえば、近所の公園を散歩するとか、親子でキャッチボールをするなど、お金の受払いをとまなわない活動は経済活動ではありません。

経済 経済の語源は「経世済民(世を治め民を救う)」という中国の故事にあります。経済を英語でいうとEconomyですが、これはギリシャ語の「家政学」が語源となっています。

循環活動 生産と消費を繰り返すことをいいます。私たちの暮らしは、限りある資源を社会の隅々にまで分配するという活動を繰り返しています。

経済とは暮らしの活動のこと



1-2 経済の始まり 分業と交換

経済(生産と消費の循環活動)は、^{せいさんぶつ こうかん}生産物を交換するという活動に支えられています。

◆ 経済は、分業と交換で発展！

私たちは、暮らしに必要な生産物(生産された財)をすべて自分ひとりの力で作りだすことができません。そこで、生産物をお互いに交換しあう「^{ぶつぶつこうかん}物々交換」が行われるようになりました。これが経済の始まりです。物々交換により、交換のしくみが誕生しました。やがて、^{ぶんぎょう}分業による生産活動がはじまりました。みんなで役割を分担すると、たくさん

の生産物をつくれるようになり、生産の効率が上がりました。さらに、^{かへい}貨幣の誕生により、交換の効率は飛躍的な高まりを見せます。貨幣は腐らないので、欲しい生産物を欲しいときに手に入れられるようになりました。

現代の経済は、こうした^{ぶんぎょう こうかん}分業と交換というしくみに支えられて、大きな発展を遂げてきたのです。

◆ 交換取引＝売買による生産物の分配

生産物を交換することを^{こうかんとりひき}交換取引といいます。交換取引は、お金(貨幣)を使つての^{ばいばい}売買という形で行われます。

お金を使って売買することで、生産物は円滑に流れるようになります。生産物は、生産者と遠く離れた人々にも届けられるようになったのです。

交換取引は、私たちの社会全体に^{せいさんぶつ ぶんばい}生産物を分配する役割を担っています。私たちが豊富な種類の財に囲まれた暮らしを送れるのは、交換取引が行われているからです。経済は「^{こうかん}交換」という機能なしには、成り立たないのです。

^{かへい}貨幣 交換取引に使用できる共通の財貨として生まれたもので、通貨ともいいます。最初は、貝殻・石・骨などの、自然のものを素材とした貨幣が使われました。

^{ぶつぶつこうかん}物々交換 自分の財と他人の財とをお互いに取りかえることをいいます。生産物を交換することで、生産と消費の循環は、自給自足の生活に比べてずっと豊かなものになります。

大昔の暮らし
自給自足

不便！ 無理！



暮らしに必要なモノを
自分ひとりでは作れない



物々交換へ...



経済の始まり



分業

生産効率
UP



貨幣

交換効率
UP

交換取引

社会全体に
生産物を分配

経済の発展

1-3 経済とは、取引のこと！

経済(生産と消費の循環活動)は、財やサービスを売買するときの^{とりひききんがく}取引金額から捉えられます。

◆ 経済＝取引

経済活動は、私たちが豊かな暮らしを送るための活動です。豊かな暮らしを実現するには、まず経済の状態を知る必要があります。経済活動を目で見ることにはできませんが、その足跡は「お金と何かを交換する」というやりとり(取引)として残されています。そのため、^{けいざい とりひき}経済は取引として捉えられるのです。

◆ 売買により、財・サービスが消費される！

財やサービスをお金と交換することを^{ばいばいとりひき}売買取引といいます。

生産された財やサービスは、売買されることで社会に流通していき、消費されます。

たとえば、財やサービスを「10個売買」ということは、「10個生産」されたものが「10個消費」されたことをあらわします(注)。

◆ 経済は、取引金額で捉えられる

経済(生産と消費の循環活動)の状態は、財やサービスの数量ではなく、^{とりひききんがく}取引金額(価格×数量)の大きさで捉えられます。なぜなら、私たちが消費する財やサービスには多くの種類があり、価格が違う財の数量を足し合わせても意味がないからです。

たとえば、1個20円のみかん2個と1個100円のりんご3個は合わせて5個ですが、みかん3個とりんご2個も合わせて5個です。数量は同じですが、金額では前者が340円、後者が260円と異なります。

このように、マクロ経済の大きさは、数量ではなく金額で捉えられるのです。

(注) ^{けいざい みかた}経済の見方 経済は、「生産」、「交換」、「消費」のどの側面から見ても、すべて同じです。

^{とりひききんがく}取引金額 価格に数量を乗じたものをいいます。たとえば、1個100円のみかんを10個買うと、取引金額は1000円(100円×10個=1000円)となります。



経済 = 取引



$$\text{価格} \times \text{数量} = \text{取引金額}$$

↓

経済活動の大きさ

1-4 経済学って何？ 資源配分

経済学とは、「限りある資源から、どのような財を生産して分配すれば、幸せな暮らしができるか」ということを研究する学問です。

◆ 稀少性って何だろう？

私たちの「財が欲しい」という欲望に対して、財の量が足りないことを**稀少性**(注)とい
います。

財のもととなる**資源には限り**があります。空気のように無限と思えるほど豊富に存在
する資源もあれば、農作物や海産物のように使える量が限られている資源もあります。
また、ダイヤモンドや貴金属のような資源は、**稀**にしか見つかりません。

◆ 資源配分問題ってどんなこと？

「限りある稀少な資源をどのように使うのか」という問題を**資源配分問題**とい
います。

最適な資源配分とは、生産物に売れ残りも品不足もなく、社会全体として、むだなく資
本や資源が配分される状態をいいます。

◆ 経済学＝資源配分問題の探求

経済学は、「どうしたら効率よく資源配分できるのか」という資源配分問題の解決策を
求める研究です。

稀少な資源を使って、「誰がどれだけ生産するのか」、「どのように生産するのか」、
「生産物を誰にどのように分配するのか」という問題に取り組んでいます。

経済学は、私たちが豊かな生活を送るために、どのような選択枝があるのかを探求し
ているのです。

(注) **稀少性** 稀少性とも書きます。

資源配分 財やサービスを生産するために、稀少な資源を配分することです。



経済学

資源配分について
考えよう！

私たちの暮らしに必要な財
財をつくる資源には限りがある

稀少性

足りない！



資源配分問題

- 誰がどれだけ生産するのか？
- どのように生産するのか？
- 生産物を誰にどのように分配するのか？

最適な資源配分を
目指そう

限りある資源を
大切に使う



みんなが幸せに
暮らせる方法を

経済学で考えよう

未来のために…



1-5 経済理論のエッセンス 需要＝供給

経済学では、経済をてんびん天秤の働きになぞらえて、天秤が釣りあうきんこう(均衡する)ところに取り引が生まれると考えます。

◆ 需要と供給って何？

財やサービスの売り手の「どれだけ財を売りたいか」という欲求のことをきょうきゅう供給といいます。一方、財やサービスの買い手の「どれだけ財を買いたいか」という欲求のことをじゅよう需要といいます。

◆ 均衡とは、需要＝供給で安定すること！

需要と供給がひと等しくなってあんてい安定している状態をきんこう均衡といい、このときの取引量のことをきんこうりょう均衡量とか、きんこうとりひきりょう均衡取引量といいます。

天秤(注)を使って、均衡を説明してみましょう。天秤の一方の皿に「需要」をのせ、もう一方の皿に「供給」をのせます。需要と供給の大きさが等しくなったとき、天秤のさお竿は水平になって安定します。この状態が均衡です。

取引は、需要と供給が均衡したときに生まれます。

◆ 経済理論では、価格と均衡量を分析する

需要と供給の大きさは、商品の価格の水準により変化します。

けいざいりろん経済理論は、「価格がどのように動いて需要と供給が均衡するのか」というきんこう均衡こいたいたる過程かていを説明しようとするものです。

かかく価格ときんこうりょう均衡量の関係を解き明かすことで、経済を捉えようとしています。

てんびん (注)天秤 さお 竿の両皿に同じ重さのモノをのせると竿が水平になることを利用して、重さを計る道具です。

じゅよう 需要 財やサービスを買いたいという欲求のことをいいます。これは、購買力(お金があって買うことができる)に基づく欲求で、単にモノが欲しいという欲望のことではありません。

供給 = **需要** → **均衡**

需要と供給が等しくなって安定している状態



取引 { **均衡量** 10個が決まる！
価格 ●円も決まる！

- 価格が動くと、需給も変わる！
- 価格と均衡量の関係は？

1-6 マクロ経済学とミクロ経済学

経済学には、^{けいざいがく}マクロ経済学と^{けいざいがく}ミクロ経済学という2つの研究分野があります。

◆ マクロ経済学 一国全体の取引の研究

マクロ経済学とは、一国全体(社会全体)の経済活動(取引)を分析する学問のことで、^{きよしてきけいざいがく}巨視的経済学と訳されます。マクロ経済学では、「^{こくみんしよとく}国民所得がどのように決定されるか」というテーマを研究しています。これを^{しよとくぶんせき}所得分析といいます。国民所得は、一国全体の取引量の大きさをあらわします。

マクロ経済学は、**ジョン・メイナード・ケインズ**によって創始されました。ケインズは著書「^{いっばんりろん}一般理論」において、1929年の^{だいきょうこう}大恐慌後に起こった^{たかいしやうりつ}経済不況(高い失業率)が長期的な現象であり、^{のぞ}望ましい^{けいざい}経済(^{さいてき}最適な^{きんこうりやう}均衡量)を実現するには、政府による経済政策が必要であると主張する学派です。

◆ ミクロ経済学 個々の取引の研究

ミクロ経済学とは、個々の家計(消費者)と企業(生産者)の経済活動(取引)を分析する学問のことで、^{びしてきけいざいがく}微視的経済学と訳されます。ミクロ経済学では、「^{かかく}価格がどのように動くのか」という研究をしています。これを^{かかくぶんせき}価格分析といいます。

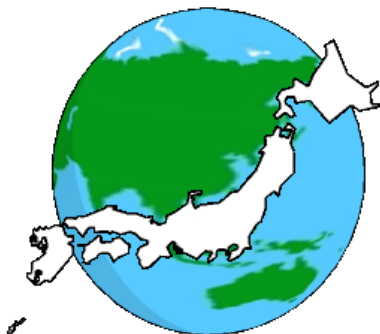
ミクロ経済学は、^{こてんは}古典派(**アダム・スミス**が創始した経済の学派)が唱えた経済学です。古典派は、家計と企業が^{ごうりてき}合理的に^{こうどう}行動することを前提に、民間にまかせておけば、市場メカニズムの働きにより、^{のぞ}望ましい^{けいざい}経済(^{さいてき}最適な^{きんこうりやう}均衡量)が実現すると主張する学派です。

^{だいきょうこう}**大恐慌** 1929年10月24日に、ニューヨークのウォール街の株式市場が大暴落したのをきっかけに起こった世界規模の経済不況のことで、世界大恐慌、世界恐慌ともいいます。

^{こてんは}**古典派** 経済学の始祖とも呼ばれるアダム・スミスによって創始され、18世紀末から19世紀後半にかけてイギリスで広まった自由主義経済学の学派です。

マクロ経済学 (巨視的経済学)	研究対象: ^{いっこくぜんたい とりひき} 一国全体の取引
	研究テーマ: ^{しよとくぶんせき} 所得分析
	国民所得(一国全体の取引量)はどのように決定されるか
	ジョン・メイナード・ケインズ
	政府による ^{けいざいせいさく ひつよう} 経済政策が必要 であると主張
ミクロ経済学 (微視的経済学)	研究対象: ^{こ こ とりひき} 個々の取引
	研究テーマ: ^{かかくぶんせき} 価格分析
	価格はどのように動くのか
	古典派(アダム・スミス)
	合理的行動で ^{しじょう はたら} 市場メカニズムが働く と主張

マクロ経済学
国全体の取引
所得分析



ミクロ経済学
個々の取引
価格分析



望ましい経済の実現には…

経済政策が必要
市場メカニズムは働かない

経済政策は不要
市場メカニズムが働く

1-7 マクロ経済理論って何？

マクロ経済学には、^{こくみんしよとく}国民所得の決定について、2つのマクロ経済理論(ケインズ学派 vs 新古典派)があります。

◆ 総供給と総需要って何？

マクロ経済では、^{そうじゆよう}総需要と^{そうきようきゆう}総供給が等しくなるところで均衡し、^{そうとりひき}総取引(均衡量)が生まれると考えます。

個々の財やサービスの供給を足し合わせたものを^{そうきようきゆう}総供給といいます。一方、個々の財やサービスの需要を足し合わせたものを^{そうじゆよう}総需要といいます。

◆ 総取引＝国民所得

総需要と総供給が等しくなるときに生まれる均衡取引量のことを^{こくみんしよとく}国民所得といいます。国民所得とは、一国全体の所得額のこと、1年間に生み出された^{さいしゆうせいさんぶつ}最終生産物の取引量の合計です。これを^{そうとりひき}総取引と呼びます。

種類の違う財やサービスの数量は単純に合計できないため、総取引は^{とりひききんがく}取引金額(数量×価格)の合計であらわします。

◆ 2つのマクロ経済理論

マクロ経済学には、「^{こくみんしよとく}国民所得がどのように決定されるか」という^{しよとくけつていりろん}所得決定理論について、^{がくは}ケインズ学派(ケインズを支持する学派)と^{しんこてんは}新古典派(ミクロ経済理論を研究する学派)が対立しています。

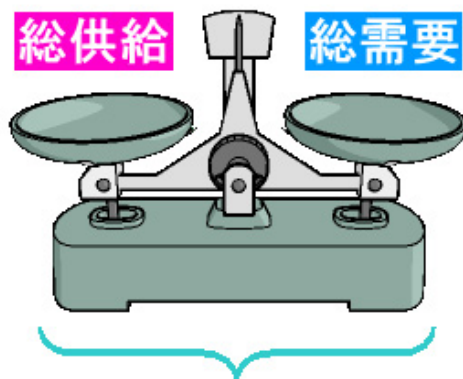
1970年代、新古典派はケインズのマクロ経済理論を批判して、ミクロ分析を基礎とするマクロ経済理論を展開しはじめました。そのため、マクロ経済学の中に、「^{けいざいりろん}ケインズのマクロ経済理論」と「^{しんこてんは}新古典派のマクロ経済理論」の2つの研究が生まれています。

^{しんこてんは}**新古典派** 古典派の思想を継承して発展を遂げ、経済学の主流となった諸学派の体系です。新古典派の理論は、「個々の経済活動」を対象とするミクロ経済理論です。

^{ふんせき}**ミクロ分析** ミクロ経済学の研究テーマである市場の働き(財・サービスの個々の価格と市場均衡との関係)を捉える分析をいいます。

均衡

総需要と総供給が等しくなって
安定している状態



均衡量 = 国民所得



どのように決まるか？

ケインズ学派

対立

新古典派

国民所得

- 一国全体の所得額
- 総取引
(最終生産物の取引の合計)
- 取引金額の合計であらわす

1-8 2つのマクロ経済理論はどう違う？

ケインズ学派は「経済は望ましい状態では均衡していない」と考え、新古典派は「経済は望ましい状態では均衡する」と考えます。

◆ ケインズのマクロ経済理論

ケインズ学派は、「**数量調整**^{すうりょうちゆうせい}により、市場が均衡する」という理論を展開しています。このメカニズムで実現する国民所得(均衡量)の^{きんこうこくみんしよとく}ことを**均衡国民所得**と呼びます。

ケインズ学派は、「経済は望ましい状態では**均衡していない**^{きんこう}」と考えます。「望ましい状態」とは、財やサービスに売れ残りがなく、失業者もいない世の中のことです。

ケインズ学派は、人々の行動は必ずしも**合理的ではない**^{ごうりてき}ため、**価格が動かず**^{かかく うご}に取引がうまく行われないと考えます。価格が動かないため、需給ギャップが望ましい状態に調整されず、均衡量が過少に決まります。過少均衡のために**失業**^{しつぎょう}が発生すると考えています。

◆ 新古典派のマクロ経済理論

新古典派は、「**価格調整**^{かかくちゆうせい}により、市場は均衡する」という理論を展開しています。このときの国民所得(均衡量)の^{かんぜんこようこくみんしよとく}ことを、**完全雇用国民所得**と呼びます。新古典派は、「経済は望ましい状態では**均衡する**^{きんこう}」と考えます。望ましい状態とは、財やサービスに売れ残りも品不足もない状態です。みんなに職があり、失業者がいない世の中のことです。

新古典派は、人々の行動が**合理的である**^{ごうりてき}ため、**価格が動く**^{かかく うご}ことにより、取引がうまく行われると考えます。価格が動くため、経済に不均衡が生じて、すぐに望ましい状態に調整されて均衡すると考えています(注)。

^{かかく はたら}
(注) **価格の働き**

取引が行われる市場では、価格が動くことで、需給が調整されて、均衡に導かれます。

^{ごうりてきこうどう}
合理的行動 生産者(供給側)は利潤(もうけ)が大きくなるように行動し、消費者(需要側)は効用(満足度)が大きくなるように行動することをいいます。

ケインズ学派の マクロ経済理論	理論	<small>すうりょうちようせい</small> 数量調整 により、市場が均衡する
	国民所得	<small>きんこうこくみんしよとく</small> 均衡国民所得
	経済	望ましい状態では均衡していない
	人々の行動	必ずしも合理的ではない
	価格	動かない
	失業者	発生する(過少均衡のため)
新古典派の マクロ経済理論	理論	<small>かかくちようせい</small> 価格調整 により、市場は均衡する
	国民所得	<small>かんぜんこようこくみんしよとく</small> 完全雇用国民所得
	経済	望ましい状態で均衡する
	人々の行動	合理的である
	価格	動く
	失業者	発生しない(完全雇用状態で均衡するため)

経済が望ましい状態とは…



売れ残りも品不足もなく

失業もない!

1-9 経済政策って必要なの？

不況を克服するのに、ケインズ学派は「政府が取引を創出すべき」と考え、新古典派は「創出すべきではない」と考えます。

◆ 経済政策の是非！

ケインズ学派と新古典派は、経済政策の是非をめぐる意見が対立しています。ケインズ学派は、政府が市場（民間取引）に介入すべきだと主張するのに対して、新古典派は市場に任せるべきだと主張しています。

◆ ケインズ学派の主張

ケインズ学派は、政府が取引を創出すべきと考えます。不況を克服するには政府がお金を使って取引を増やせばよいと考えました。この経済政策の実施は、不況から立ち直れない経済を救う処方箋として、1970年代ごろまで大きな成果をあげました。これは、体調が悪いときには、薬を服用して早く治してしまえばよいというのに似ています。

ところが、1970年代になって、先進諸国がスタグフレーション（注）という新しい経済現象に見舞われはじめたために、ケインズ政策を批判する学派が誕生しました。

◆ 新古典派の主張

新古典派は、政府が取引を創出すべきではないと考えます。民間に任せておけば、経済は自然に望ましい状態を創り出すと主張しています。新古典派は、不況を克服するために政府は取引を増やすべきではないと考えました。これは、薬には副作用がともなうので、自然治癒力で長期的に治す方がよいと考えるのに似ています。

（注）スタグフレーション 不況なのに物価が上がる現象をいいます。

経済政策 物価の安定、雇用水準の維持、最適な資源配分、所得の再分配などの経済の目標を達成させるための政策のことです。

不況を克服するには…？



ケインズ学派

対立

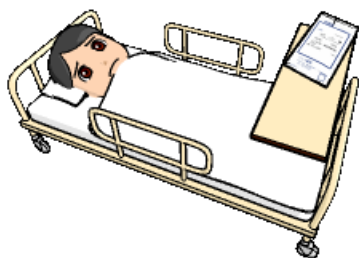
新古典派

経済政策は**必要**

市場に**介入**すべき

取引の創出は**必要**

体調が悪いときには
薬を飲んで**早く**治そう



経済政策は**不要**

市場に**任せる**べき

取引の創出は**不要**

薬には副作用が伴うので
自然治癒力で**ゆっくり**治そう



1-10 マクロ経済学を学ぶ目的って何？

マクロ経済学を学ぶ目的は、**経済情報リテラシー**^{けいざいじょうほう}(注)(経済情報を使いこなす能力)を高めることにあります。

◆ マクロ経済学で経済政策の必要性を学ぼう

マクロ経済学では、「みんなが**豊かな暮らし**^{ゆたか}ができるだけの国民所得を生み出しているか」というテーマを探求しています。

2つのマクロ経済学(ケインズ学派 v.s. 新古典派)の考え方から、**経済政策が必要か**^{けいざいせいさく} (政府が民間の経済に介入すべきか)どうかを学びます。

◆ 間接的に経済政策に参加できる！

経済政策の決定は、政府の仕事です。私たちは、これに直接関わることはできません。しかし、各政党や立候補者たちがどのような政策を目指しているのかを知り、選挙で優れた国会議員を選ぶことはできます。

つまり、私たちは、**間接的に経済政策の決定に参加できる**^{かんせつてき}のです。

◆ 経済情報リテラシーを高めよう！

日本が世界に通じる経済力を得るには、どうしたらよいのでしょうか？その答えは、私たち国民一人ひとりの**経済情報リテラシーを向上させる**^{けいざいじょうほう}ことにあります。

私たちの暮らしには、経済に関する情報(ニュースや新聞記事など)があふれています。これらの情報を使いこなし、実生活に活かすことが重要です。

経済の大局観^{たいきょくかん}(全体の動きの見方や判断)を養成するのに、マクロ経済学はとても役立つのです。

(注)リテラシー 知識を活用したり、分析したりする能力のことをいいます。

マクロ経済学

豊かな暮らし
国民所得



不況時には？

ケインズ学派

対立

新古典派

経済政策は必要

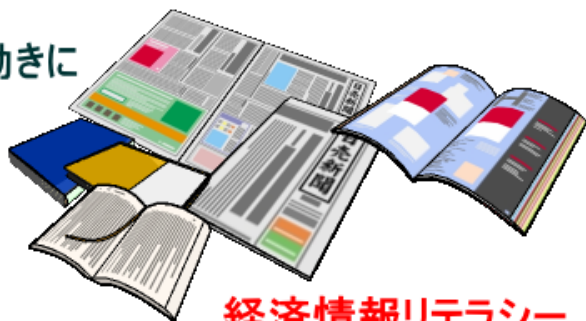
経済政策は不要

経済政策は、政府が決定

選挙で
よい国会議員を選ぶことで
政策決定に
間接的に参加できる



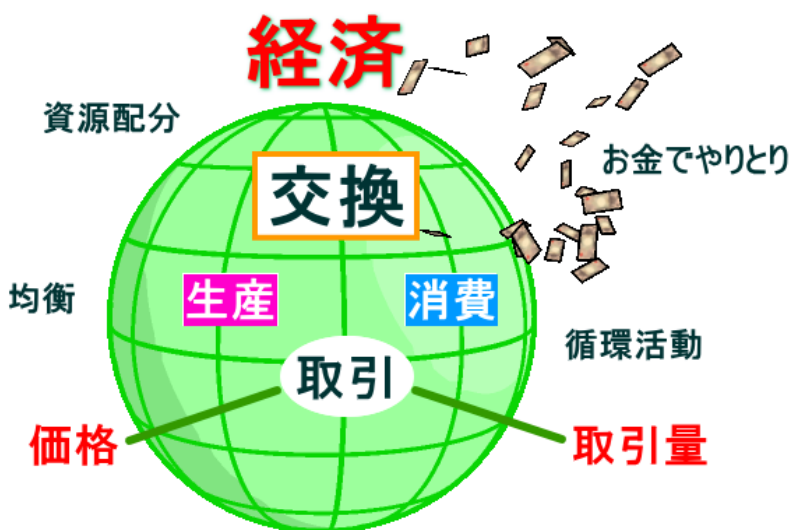
世の中の動きに
強くなろう



経済情報リテラシー

1-11 まとめ

- (1) 経済とは、財やサービスを**お金**でやりとりする活動のことで、**生産と消費の循環**活動として捉えられます。
- (2) 経済は、**分業と交換**というしくみに支えられて、大きな発展を遂げてきました。
- (3) 経済の状態は、財やサービスの**取引金額**(価格×数量)の大きさに捉えられます。
- (4) 経済学とは、「限りある資源から、どのような財を生産して、分配するか」という**資源配分問題**を研究する学問です。
- (5) 経済学では、需要と供給が**均衡**するところに取引が生まれると考えます。
- (6) 経済学には、一国全体の経済活動を分析する**マクロ経済学**と、個々の経済活動を分析する**ミクロ経済学**という2つの研究分野があります。
- (7) マクロ経済学には、**所得決定理論**(**国民所得**の決定)について、2つのマクロ経済理論(ケインズ学派 v.s. 新古典派)があります。
- (8) マクロ経済理論では、ケインズ学派は「価格が動かず、均衡しない」と考え、新古典派は「価格が動いて、均衡する」と考えます。
- (9) 不況を克服するのに、ケインズ学派は「政府が取引を創出すべき」と考え、新古典派は「創出すべきではない」と考えます。
- (10) マクロ経済学を学ぶ目的は、**経済情報リテラシー**を向上させることにあります。



1-12 ワンポイント・コラム

【 ジョン・メイナード・ケインズ 】

(John Maynard Keynes, 1883 年—1946 年)

ケインズは、イギリス生まれの経済学者で、**マクロ経済学**の**創始者**です。また、新古典派を集大成したケンブリッジ大学の経済学者**アルフレッド・マーシャル**の**弟子**としても知られています。

1936 年に、著書『**雇用・利子および貨幣の一般理論**』を発表し、**有効需要の原理**を基礎とするマクロ経済学を樹立しました。

著書では、「失業の原因は有効需要の不足にあり、政府が有効需要を創出する政策をとることで、企業の投資を増大させて、景気を回復させられる」という理論を示しました。

ケインズは、多くの才能に恵まれていて、官僚、ジャーナリスト、投資家としてその名前が知られています。また、貨幣論の研究者でもあり、金本位制をやめて、**管理通貨****制度**に移行すべきであるという提案をしました。



ケインズは、投資家としても有名。

著書

「平和の経済的帰結」1919年

「貨幣改革論」1923年

「一般理論」1936年

があるよ。

第2章 経済のしくみ

経済とは、経済主体が、市場価格(売り手と買い手が合意する価格)で財の^{とりひき}取引を行うことです。ここでの財とは、最終生産物のことです。

最終生産物の^{そうとりひきりょう}総取引量は均衡生産量(国民所得)と等しくなり、経済の大きさをあらわします。

◆◆◆ 第2章 目次 ◆◆◆

- 2-1 経済は「取引」から捉えよう！
- 2-2 経済主体の役割と行動
- 2-3 市場って何？
- 2-4 交換取引の役割
- 2-5 市場で何を分析するの？
- 2-6 マネーストックって何？
- 2-7 まとめ

◆◆◆ ワンポイント・コラム ◆◆◆

理論とあてはめ

参考文献:

雇用・利子および貨幣の一般理論

J.M. Keynes (原著), 塩野谷 祐一 (翻訳)

出版社: 東洋経済新報社 ; ISBN: 4492312188 ; [普及版] 版 (1995/03)

ケインズ経済学入門 基本テキスト

マーク ブローグ (著), 中矢 俊博 (翻訳)

出版社: 東洋経済新報社 ; ISBN: 4492084029 ; (1991/11)

国富論 (1)~(4)

Adam Smith (原著), 水田 洋 (翻訳), 杉山 忠平 (翻訳)

出版社: 岩波書店 ; ISBN: 4003410513 (2000/05)

インフレ、雇用、そして金融政策—現代経済学の中心的課題

ロバート・M. ソロー (著), ジョン・B テイラー (著), ベンジャミン・M. フリードマン (編集), Robert M. Solow (原著), Benjamin M. Friedman (原著), John B. Taylor (原著), 秋葉 弘哉 (翻訳), 大野 裕之 (翻訳)

出版社: ピアソンエデュケーション ; ISBN: 4894716224 ; (1999/12)

選択の自由 (上/下)

M.フリードマン (著), R.フリードマン (著), 西山千明

出版社: 講談社 ; ISBN: 406183021X ; 上 巻 (2000)

出版社: 講談社 ; ISBN: 4061830228 ; 下 巻 (2000)

プログラム学習によるサムエルソンの経済学入門

学研大学叢書 プログラム学習シリーズ 7

エドワード・フォスター (著), 経済システム研究会 (翻訳)

出版社: 学習研究社 ; ISBN: 4051047873 ; (1974/02)

Economics

Richard G. Lipsey (著), Peter O. Steiner (著), Douglas D. Purvis (著), Paul N. Courant (著)

出版社: Harper & Row, Publishers ; ISBN: 0060439084 ; (1990/12)

Economics (Barron's Business Review Series)

Walter J. Wessels (著) 出版社: Barrons Educational Series Inc ; ISBN: 0-8120-3560-7 (1987)

【 著者紹介 】

有馬秀次(ありまひでつぐ)

1951年：京都府に生まれる

1974年：関西学院大学商学部を卒業

1993年：フィナンシャル・アーティスト・アカデミー株式会社設立

2000年：WEB サイト:「金融大学」を創設

「金融大学講座」、「金融用語辞典」、「市場レポート」などを配信

2011年：通訳案内士登録(第 EN03028 号)

職歴： チェースマンハッタン銀行、スイスユニオン銀行、

伊藤忠テクノサイエンス、金融監督庁等

著書： 実戦オプション取引入門(日本経済新聞社) 1990

新版 実戦オプション取引入門(日本経済新聞社) 1996

Excel で学ぶ やさしいマクロ経済学(オーム社) 2005

ひとりで学ぶ 超図解マクロ経済学(フィナンシャル・
アーティスト・アカデミー社) 2007

わずか 3 秒で解ける ツルカメ算(フィナンシャル・
アーティスト・アカデミー社) 2012

ひとりで学ぶ

ちょうずかい けいざいがく

超図解マクロ経済学 改訂版

2012年7月8日 再版発行

著者 有馬秀次 ©Hidetsugu Arima 2012

発行者 有馬秀次

発行所 フィナンシャル・アーティスト・アカデミー株式会社

〒174-0052 東京都板橋区蓮沼町 45-6-103

TEL 03-3558-1853 FAX 050-1094-1853

DTP 制作 フィナンシャル・アーティスト・アカデミー株式会社

定価(本体 500 円+税)

ISBN978-4-9903383-5-0 C0833 ¥500E

Printed in Japan

落丁、乱丁本はお取替えいたします。

本書の一部または全部を著作権法で定められている範囲を超え、フィナンシャル・アーティスト・アカデミー株式会社に無断で複写、複製、転載、データファイル化することを禁じます。